

施策番号	445	施策名	循環型社会の形成	令和5年度主管課名	くらし安全課
総合計画 体系	政策名	4	快適な生活環境の里づくり	令和5年度課長名	松本 博巳
	関係課名			シート作成者	井手 俊文

1. 施策の対象と意図の指標

①施策の対象(誰、何が対象か)			③対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町民	→	ア	人口	人	見込値 実績値	見込値 実績値	12,497 12,358	12,358 12,116	11,627 12,116	11,455	11,280
イ 世帯	→	イ	世帯数	世帯	見込値 実績値	見込値 実績値	5,580 5,577	5,577 5,519	5,600 5,519	5,600	5,600
ウ 世帯と事業所で発生した廃棄物	→	ウ	廃棄物量	トン	見込値 実績値	見込値 実績値	3,447 3,402	3,402 3,392	2,492 3,392	2,521	2,390
②施策の意図(対象をどうしたいのか)			④成果指標(意図の達成度)		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア ゴミを減らす	→	ア	1人当たりのごみの排出量(年間)	kg	目標値	231.8	221.8	211.8	210.3	210	
					実績値	275.9	275.3	263.3			
					達成率	84.0%	80.6%	80.4%	79.9%	79.8%	
イ リユース、リサイクルを進める	→	イ	ゴミ減量化・リサイクルに取り組んでいる町民の割合	%	目標値	74.0	75.0	76.0	78.0	78.0	
					実績値	73.3	76.5	78.2			
					達成率	99.1%	102.0%	102.9%	100.3%	100.3%	
ウ 適正に処理(分別する、不法投棄しない)する	→	ウ	不法投棄苦情件数	件	目標値	5	4	4	3	3	
					実績値	5	5	3			
					達成率	100.0%	80.0%	133.3%	100.0%	100.0%	
エ	→	エ			目標値						
					実績値						
					達成率						
⑤成果指標設定の考え方		ごみの減量化が成果として求められていることから、町民アンケートからごみの減量化・リサイクルに取り組んでいる町民の割合、人口1人当たりのごみの排出量を成果指標とした。			⑥成果指標の把握方法と算定式等		ア 一般廃棄物処理事業実態調査のごみ排出量を算出 イ 役場くらし安全課のデータ資料 ウ 町民アンケート結果				

2. 施策の役割分担

施策成果向上 に向けた 住民と行政との 役割分担	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
	・町民は、ごみの発生、排出量の削減に努め、分別収集と再資源化の取組に協力する。 ・地域は、資源ごみの集団回収を促進する。 ・事業所は、自らのごみは適正に処理をおこない、事業活動によって生じた廃棄物の再生利用を積極的に行う。	・ゴミステーションなどの整備、修理支援や資源ごみ集団回収支援などを行う。 ・生ごみ処理機等の導入費用に支援をおこない、ごみの発生抑制を行う。 ・広報誌、ホームページ、ごみの分別アプリなどを活用し、環境教育・意識啓発に取り組む。

3. 評価結果

5 年度 の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因	
	① 施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か? その要因は?)	
	・1人当たりのごみの排出量は、年間目標値を達成できなかった。要因は、資源ごみ回収団体が回収をおこなう資源ごみの量が減少していることが1つの要因と思われる。 ・不法投棄の苦情件数は目標値を達成している。令和4年度は、沖地区で不法投棄が多く発生したが、地元で監視カメラを購入し設置をおこなったり、地域住民で巡回をおこなった結果減少している。苦情があった場合は、ダミーの監視カメラ付き看板を設置している。 ・ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる町民の割合は目標値に達成している。	☐ 目標値を上回る ☐ 目標値どおり ☒ 目標値を下回る
	② 成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)	
	・廃棄物の全体の量は年々減少している。ごみの減量やリサイクルに取り組んでいる町民の割合を昨年度と比較してみると、年代別では、10歳代から50歳代までは増加しているが、60歳代以上は微減となっている。20歳代は20ポイント増加し60%を超えている。4年度は上斎原地域、香南・香北地域の取組みが高かったが、5年度は、上斎原・久泉・香南・香北・中谷・芳野の取組んでいる割合が高くなっている。20歳代の取組みと取り組んでいる地域が高くなっているため、向上したと判断した。	☒ 向上した ☐ ほとんど変わらない ☐ 低下した
	③ 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)	
	・一般廃棄物実態調査における近隣市町村の1人1日あたりのごみの排出量は、令和4年度の実績で津山市が896g/人日、人口規模が同規模な勝次町が713g/人日、美咲町が719g/人日に対し、鏡野町は787g/人日。岡山県は899g/人日である。要因としては、可燃ごみ・粗大ごみの排出量が多いことである。 ・リサイクル率は、津山市18.6%、勝次町17.8%、美咲町23.5%、岡山県23.5%に対し、鏡野町は18.8%。要因としては、紙類・容器包装プラの回収量が他の町村より低いことが要因の一つと考えられる。ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる町民の割合は高くなっているが、リサイクル率・1人1日あたりのごみの量は、近隣町村に比べ低い水準になっている。	☐ 高い水準 ☐ ほぼ同水準 ☒ 低い水準
	2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など	
	・製品プラスチックを容器包装と一緒に回収をおこなうのか、製品プラスチックの回収、処理方法について、一部事務組合で協議をおこなっている。 ・廃棄物量は年々減少しているが、資源ごみの回収量を増やさなければ、ごみ量の目標値は達成できない。 ・資源ごみ回収団体がいない地域のため、古紙・古着の回収をおこなうストックヤードを令和5年7月に行政が試験的に設置をおこなった。 ・ごみの分別の仕方について多く問い合わせが寄せられている。	
	3. 施策の振り返りと総括 (5年度の事務事業や取組の成果は? うまいかなかった取組・問題点と原因は?)	
	① 施策の成果向上につながった主な事務事業	資源回収推進団体等報奨金事業
	② 施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業	資源回収ストックヤード施設整備補助金
	③ 施策全体の振り返りと総括	
	・ホームページには常時補助金、奨励金の申請ができるようにしている。毎月広報誌に環境関連の記事を掲載した。ごみ分別の出前講座を1回、環境衛生委員の研修会を1回開催した。生ごみ処理機等助成金は1回、ごみ量のデータを1回広報誌に掲載をおこなった。・資源ごみ回収推進団体等報奨金事業については、コロナ禍で回収をおこなっていない団体が増えているが、資源ごみの回収量は減っている。ストックヤードを持たない団体が多いため、回収を増やさないと回収量は増えないと考えられる。町内にリユース事業がないことや地域住民より資源ごみをどのようにしたらよいかの問い合わせがあり、行政で古紙、古着のストックヤードを設置し回収をはじめた。回収量はまだまだ少ないので啓発をおこなっていく。 ・鏡野町一般廃棄物処理基本計画の改定を令和6年度に行う。	
	4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取り組むべきこと、さらに力をいれる必要があることは?)	
	① 今後施策の成果向上につなげる主な事務事業	資源回収ストックヤード施設整備補助金
	② 施策全体の今後の課題と改革改善の方向	
	・生ごみ処理機等購入助成事業は、年平均20台ほどだったものが、令和5年度は38台と倍近くに増えた。今後も継続していきたい。 ・リサイクル活動に取り組んでいる町民の割合が高く、意識は高い。行政でストックヤードを整備し、古紙・古着の回収をはじめた。 ・資源回収団体がストックヤードを設置できるよう補助金を設けているが、補助率が経費の1/2、上限30万円となっている。3年間で申請は1件である。資源回収団体へ資源ごみ量に対し奨励金を出している。その単価を昨年上げたが、ストックヤード設置の増加には繋がらなかった。引き続き啓発をおこなっていく。 ・ごみの分別アプリ「さんあ〜る」を活用し、ごみの分別について啓発していく。 ・鏡野町一般廃棄物処理基本計画の改定を令和6年度に行う。	